Docker Hands On

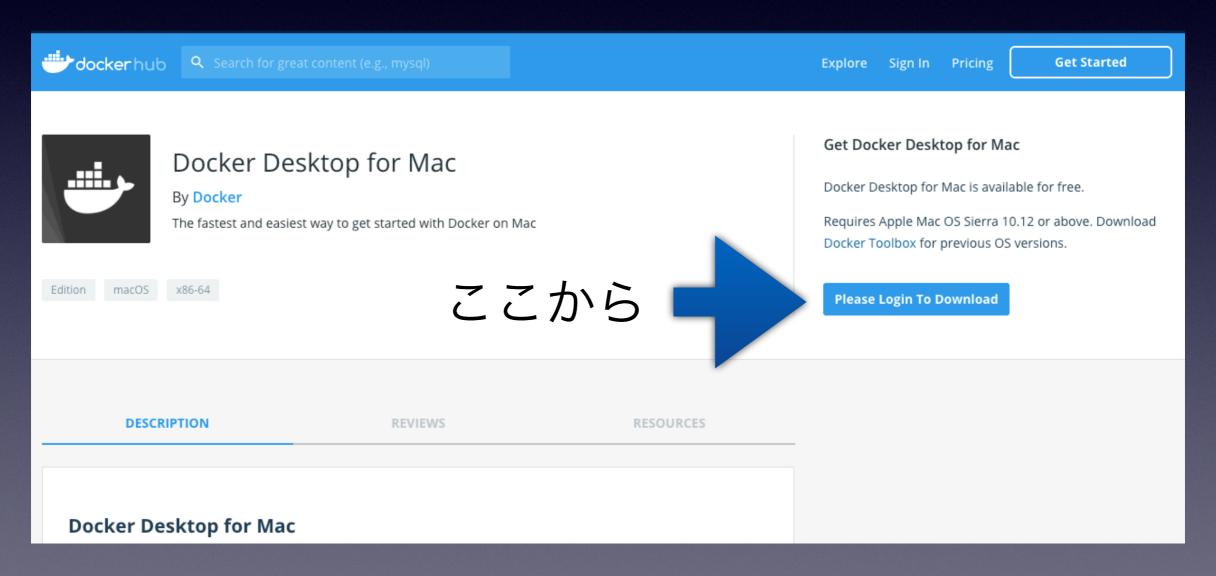
宮島健太

行うこと

- ・Dockerの環境構築
- ・コンテナの生成
- ・コンテナの使い方
- ・コンテナ間通信

環境構築

https://hub.docker.com/editions/community/docker-ce-desktop-mac



アカウントを作ってダウンロード

動作確認

\$ docker

どんな仮想環境が作れるのか?

https://hub.docker.com

ubuntu, centos,
mysql, postgresql, redis,
nginx, apache,
golang, python, etc...

→Imageと呼ばれる

MySQLのイメージのDL

\$ docker pull mysql (バージョン指定がない場合は最新)

コンテナの生成

\$ docker run --name TEST \
-e MYSQL_ROOT_PASSWORD=password \
-d mysql

MySQLのコンテナを立てる。

コンテナ名:TEST

MySQL-root-Pass: password

コンテナが生成できているか

\$ docker ps

Docker上で動いているコンテナのプロセスを確認

\$ docker ps -a

Docker上に存在するコンテナのプロセスを確認

コンテナの使用 (コンテナにログインする)

\$ docker exec -it コンテナID bash

コンテナが動いているとこのOSのbashに入ります

MySQLにログイン

\$ mysql -u root -p

先ほど設定したrootのパスワードを入力する。 あとはDBをいじる。

使わないなら止めましょう

- \$ docker stop コンテナID
- \$ docker stop コンテナ名

いらなくなったら 消しましょう。

\$ docker rm コンテナID

ここまでがDockerの 基本的な使い方

コンテナの生成から削除まで 自動でやるには

docker-composeコマンドを使用する Dockerfile, yamlを使う

Docker Compose

建てたいコンテナの設定を docker-compose.yaml に書いておく。

デプロイ設定はDockerfileに記載する。

デプロイと生成

\$ docker-compose build \$ docker-compose up -d それぞれデプロイ・それ以外のコンテナ生成

\$ docker-compose down で破棄する。

Docker Compose

1つのコンテナにイメージか実行環境

実行環境がある場合、Dockerfileでデプロイする

(個人的な) メリット

複数のコンテナの設定を記述することができる。

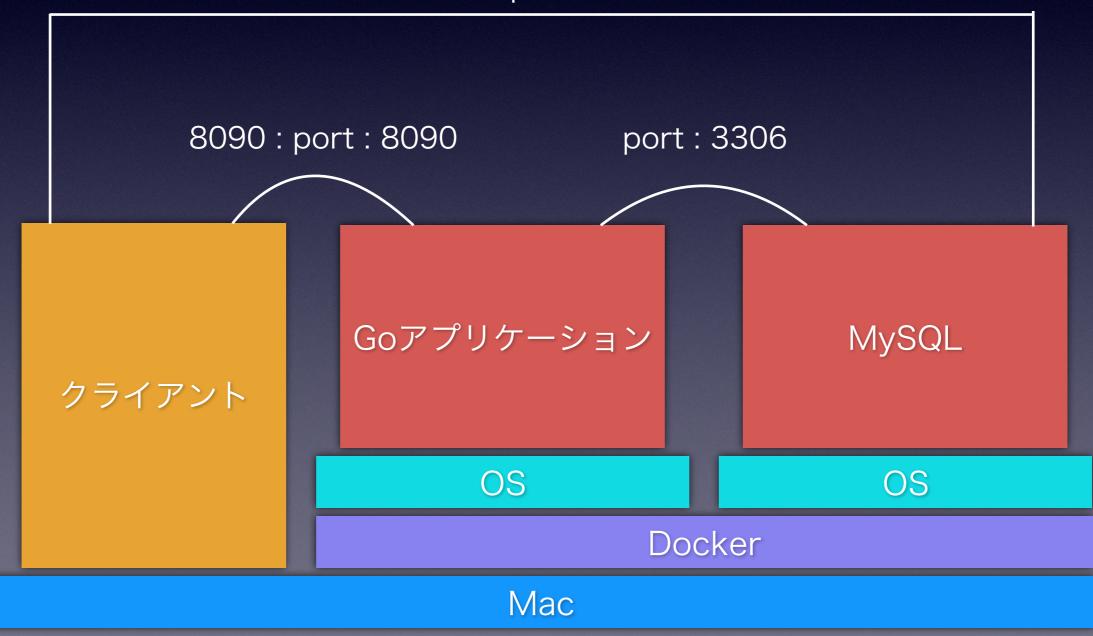
- → 一気にコンテナを立ち上げることが可能
- → コンテナ間通信の設定も出来る
- → 1つのアプリケーションを全て自動で仮想化

(個人的な) デメリット

非常にややこしい。

構築するもの

3390 : port : 3306



やってみます。

まとめ

- ・docker runで簡単にコンテナを生成
- ・docker内の通信はdockerのlocalhost
- ・ホストOSからdockerへはポートフォワーディング
- ・仮想環境自体はdocker-compose.yamlに記述
- ・デプロイの設定はDockerfileに記述